

## 会議結果のお知らせ

令和7年度第3回新里地域振興会議を次のとおり開催しました。

令和8年3月25日

宮古市地域振興会議

- 1 開催日時  
令和8年3月17日(火) 午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所  
新里福祉センター 1階 研修室
- 3 議題
  - (1) 令和8年度実施予定の主要事業（新里地域分）について
  - (2) 元気な地域づくり補助金について
  - (3) その他
- 4 会議の概要  
別紙のとおり
- 5 問い合わせ先  
企画部新里総合事務所地域づくり係 電話 0193-72-2111

## 令和7年度第3回新里地域振興会議 開催結果

### 1 出席者（9名）

川崎賢一、佐々木久志、門坂道弘、褰岩宗生、澤口浩久、伊東由美子、新川敦子  
門坂寛子、久保田将登

### 2 欠席者（3名）

飛澤和弘、松尾芳広、神道あずさ

### 3 事務局出席者（4名）

企画部長 岩間 健、企画部新里総合事務所長 蒲野栄樹  
企画部新里総合事務所地域づくり係長 山口博信、同係主査 高橋 真

### 4 傍聴者

1名

### 5 議事等

#### (1) 令和8年度実施予定の主要事業（新里地域分）について

令和8年度実施予定の主要事業（新里地域分）について事務局から説明した。

#### (2) 元気な地域づくり補助金について

元気な地域づくり補助金の令和7年度実績と、令和8年度の予定について事務局から説明した。

#### (3) その他

熊の出没に係る、里山対策とスクールバスの運行について意見があった。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【議題(1) 令和8年度実施予定の主要事業(新里地域分)について】</p> <p>(委員)            臺目方面を運行している地域バスに最近ステップが付いた。利用されている高齢者から大変ありがたいとの声があったので報告する。</p> <p>(委員)            JR山田線がトンネル内の事故により当面の間運休するとの報道があったが、山田線利用促進事業等への影響はあるか。</p> <p>(委員)            息子が高校への通学でJR山田線を利用しているが、頻繁に運休すると、今後利用できないのではと心配している。            バスを利用した場合、宮古高校へ通う生徒は間に合うと思うが、そこから先の学校は時間的に厳しいと思う。            山田線の利用は高校生が多いと思うので、考慮していただきたい。</p>	<p>(事務局)            前回の地域振興会議において、2台運行している地域バスの1台にステップがないため付けて欲しいとのご意見をいただいたので、今般取り付けを行った。            2台ともステップ付きで運行することとなり、利用者の利便性が向上したと考えている。</p> <p>(事務局)            JR東日本より、今回の事故を受けて同様のトンネルを総点検するため運休するとの報告を受けた。具体的にいつまでとの話はなかったが、これから新年度を迎え通学の利用が始まると思われるので、早期の再開を申し入れたところである。            利用促進事業への影響は、時期的に問題ないと考えている。            なお、令和6年の大雨被害により運休した際は、岩手県北自動車(株)に対して臨時バスの運行を依頼した経緯がある。今回の運休が長期にわたる場合は、同様の対策を取りたいと考えている。</p> <p>(事務局)            現在、高校は春休み期間中とはいえ、学校へ通う生徒がいることは承知している。復旧を急いでほしいとの申し入れを行っている。            日常のバス運行については、利便性を向上していただくよう継続して要望しているので、ご意見として承る。</p>

質問・意見	回答
<p>(委員)</p> <p>橋梁等の長寿命化工事について、古い橋から順に対応しているものと思うが、刈屋にある倉の沢橋は昭和18年に竣工された古いもので、骨組みが竹でできていると聞いている。</p> <p>この橋は特大車が通行できないが、以前(株)カリヤに向かう特大車が通行止めの影響で遠回りせざるを得ないこととなり、国道340号から日向橋を経由して倉の沢橋を通行したことがある。</p> <p>今後の修繕対象として倉の沢橋を入れていただきたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>市道の管理は総合事務所だが、市道にかかる橋梁は建設課が担当している。</p> <p>5年に1度点検することとなっているので、どういう状態か把握していると思うが、古い橋は意外と丈夫にできており、早急に対応すべきリストに入っていない可能性がある。建設課に問い合わせたい。</p>
<p>(委員)</p> <p>閉伊川流域振興事業のツアー実施委託について、観光プランの構築は市と委託先のどちらが行うのか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>委託先がプランを構築し、市が承認している。</p>
<p>(委員)</p> <p>林野火災で被災した山林の再生について、燃えた樹種を復旧するのか、あるいは新たな樹種を植えるのか、どういう方向性か。</p> <p>山林の保全や土砂流出の食い止めを考えて広葉樹を植える、熊や鹿などが里に下りてこないよう栗やナラなどを植えるなど、長期的な視点で取り組んではどうか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>農林課に確認し、情報提供する。</p>
<p>(委員)</p> <p>新年交賀会の際に参加者から意見があったが、新里と同日に川井でも開催されたことにより、参加者の一部が途中退席し川井に向かったため、閉会時に人が少ない状況となった。次回はそうならないよう調整を図っていただきたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>今年は急な都合により新里と川井が同日開催となった。来年は早い段階から関係各所との調整を行いたい。</p>

質問・意見	回答
<p>【議題(2) 元気な地域づくり補助金について】</p> <p>(委員) 以前の地域創造基金と比べて、事業の数は増えているか。</p> <p>(委員) 自治会も補助金を活用できるか。</p> <p>(委員) タイプ2の事業は申請額に対して交付決定額が少ないとのことだが、審査が厳しいなどの要因があるか。</p>	<p>(事務局) 事業数は増えている。 要因として、申請時のプレゼンや実施後の報告会がなく気軽にチャレンジできるタイプ1の創設が考えられる。</p> <p>(事務局) 自治会活動に対するものとしては、「地域力向上支援補助金」というものがある。また、備品等を要望したい場合は宝くじの助成もある。 元気な地域づくり補助金は地域の活性化のために活用していただきたい。 今年度は高校生が主体となった事業が2つあったほか、来年度の長沢川桜つつみフェスタは、地域の方々が実行委員会を設立して取り組むものである。 自治会の中でそういった取り組みやチャレンジしたいことなどがあれば、ぜひ総合事務所にご相談いただきたい。</p> <p>(事務局) タイプ2の事業は市民自治推進委員会が審査することとなるが、委員から様々な意見が多く出され、活発な審査会となっている。その中で、財源について申請団体への努力を促す部分や改善点の指摘があり、交付決定額の精査に繋がっていると思う。 申請団体においては、申請した額が満額補助されるわけではないということで、補助金獲得のためのアイデアを出すことにより、活動が活発になっていくという期待もある。 なお、この補助金は今年度がスタートであるので、より良い補助金事業となるよう市としても協議していきたい。</p>

質問・意見	回答
<p>(委員)  来年度の予算が9,000千円となっている。これを超えたらどうなるのか。</p> <p>【議題(3) その他】</p> <p>(委員)  昨年は熊が多く出没した。今年はさらに通年で熊対策が必要となると考えられる。新里地域は里山であるが、林業に従事する人が少なくなり、山林の手入れができていない。その結果、有害鳥獣が集落に下りてくることになったと考えるので、対応策を講じてほしい。</p> <p>(委員)  スクールバスについて、乗車の条件が家から学校までの距離によって決められている。熊出没が増えている中で、バスに乗れない児童は家族が送迎することもあるが、家庭の事情により徒歩通学せざるを得ない児童もいる。  新里地域は市中心部と状況が異なるため、一律で距離を示されることに疑問を感じる。地域の特性を考慮していただきたい。</p>	<p>(事務局)  今年度は10,000千円の予算で、実績を踏まえて新年度の予算を計上した。  タイプ1は随時受付することから、上限に達したら終了という考えもあるが、熱心にチャレンジしたい団体があれば、補正予算を計上することも必要ではないかと考える。  一方で、例えば12月議会に予算を計上しても2月末までに事業を完了できる要件に合致しないこととなるため、際限なしとすることも難しい。  補正予算の有無についてここで明言はできないが、早めの申請をいただき、余裕を持った事業を構築していただきたい。</p> <p>(事務局)  ご意見として承る。  有害鳥獣対策は農林課が所管しており、今年度は補正予算で誘引果樹やさくら公園の伐採経費を計上するなど、具体的な対策を講じた。新年度においても引き続き有効な対策を講じる予定であると聞いている。</p> <p>(事務局)  ご意見として承り、担当課へ伝える。</p>

質問・意見	回答
<p>(委員)</p> <p>新里地域の小中学校をそれぞれ統合した際、スクールバスで送迎することが条件とされ、家から学校までの距離に基づく乗車の基準が定められたと思うが、児童・生徒数が減少していることから、現在は全員を乗せることが可能であると思う。スクールバスで送迎するから統合したのだという前提に立ち返って考えてはどうか。</p> <p>通年での熊対策が必要となっており、最近ではイノシシの出没も見られるので、乗降場所について、辺りが暗くなる帰りのバスは個々の家の前で停車するなど、状況に応じた対応も必要ではないか。(意見)</p>	